

シンガポールの公共図書館を訪ねて

— デジタル技術活用に注目して

牧野 雄二

◆はじめに

2025年8月のシンガポール旅行の際に、かねてより行きたいと思っていた、シンガポール国立図書館委員会 (National Library Board, 以下「NLB」) が設置・運営する中央公共図書館とタンピネス地域図書館、さらに期間限定のスターウォーズポップアップ図書館 (チャンギ国際空港内)¹ を訪問できた。本レポートは、旅行の際にデジタル技術の活用に注目し立ち寄った3か所を中心に筆者が見たもの、及び筆者個人が考えたことについて述べている。なお、本レポートにおける「公共図書館」は、NLBの組織上の名称である「public libraries」ではなく「public (公共) に開かれた図書館」という一般的な意味で使っている。

◆シンガポールの情報政策の中で重要な位置を占める図書館

シンガポール共和国は、東京23区より少し大きい約720km²、人口約600万人を有する²都市国家である。国立図書館、国立公文書館、その他28図書館等からなるネットワークを設置・運営するNLBは、1995年9月に法定機関として設立された。情報芸術省の下に設立され、今はデジタル開発情報省の下、市民参加と共創、リソースとデジタルイノベーションに重点を置き活動している¹。「IT2000」計画に沿って構想された「Library 2000: investing in a learning nation」実現のため「NLB法」が制定されており³、図書館が情報政策の中で重要な位置にある。「Library 2000」の副題のとおり、図書館には学習国家への支援が求められている⁴。現在「LAB25 (Libraries and Archives Blueprint 2025)」に沿って、館 (physical) だけでなく、デジタル、配送サービス、Nodes (サービスポイント) といった多様なチャンネルを通じてサービスを提供している⁵。「Nodes」には30周年企画でもある前述のポップアップ図書館が含まれ、そのほかにもさまざまな取り組みを行っている⁶。

◆中央公共図書館

まずは、ブギス駅から歩き、国立図書館ビルの地下1階にある中央公共図書館を見学した。同館は2024年1月に「Singapore: Kaleidoscope (万華鏡)」をテーマにリニューアル開館した⁵。最初に、館入口 (図1) の近くにある、予約資料貸出ロッカーと自動仕分機に続く返却投入口 (bookdrop) が目に入った。入口を通るとすぐに自動貸出機や検索機があり、その近くに職員が立っており、適宜貸出方法の案内等をしていった (館内に貸出カウンターはないようだった)。また、館内に蔵書点検ロボットが置いてあった。書影が並ぶものなどタッチ式のスクリーンもあった。「イマーシブルーム」の中では壁面に動画が投影されており、開室当初は「StoryGen」というアプリケーションで生成AIを使った体験もできたようだ⁵。さらに館内には、子ども向けにアバターに色を塗るとそれがスクリーンに現れるコーナー (図2) もある。



図1 図書館入口 図2 アバターがスクリーンに現れるコーナー

なお、同ビルにある Lee Kong Chian 参考図書館の中には MakeIT というゾーンがあり、3Dプリンタなど最新の製造技術を誰でも気軽に体験できる。同館に併設されるニュースギャラリーには「Fact or Fake?」というクイズゲームがあり、情報リテラシー支援のために工夫している様子がうかがえた。

◆タンピネス地域図書館

つぎに、劇場やサッカー場、商業施設等もある複合施設「タンピネスハブ」⁷にあるタンピネス地域図書館に向かった。一番の目的は移動式返却箱 (mobile bookdrop) の見学だったが、職員に尋ねると「ストップしている」との話で動いておらず、また蔵書点検ロボットは職員の帰宅後に動くという。予約資料貸出ロッカーもありセルフサービス化が進む。同館にも MakeIT ゾーンがあり、ちょうどイベントが開かれていた。また、ボランティア管理のフロアがあり、市民協働を取り入れた工夫ある運営を感じた。

◆スターウォーズポップアップ図書館

さいごに、空港で2026年1月24日まで開館予定の小さなスターウォーズポップアップ図書館 (図3) に立ち寄った²。ゲストとして登録し入館できた。スクリーンから本を選ぶと、書架へアームを伸ばして本を抜き取り、取出口まで運ぶロボットのデモンストレーションが目を引いた (図4; QRコードから筆者撮影の動画も見られる)。筆者は図書館職員時代にコンテナで資料を管理する自動化書庫を使ったことはあったが、それとは違い、本を横にして置く特別な書架であるものの、1冊ずつ取り出せ、ここまでできるのかと驚いた。



図3 図書館入口

図4 スクリーンとロボット、動画 QR コード

◆その他

各館で貸出等ができるアプリ⁸を忘れてはならない。SNSの投稿収集や⁹Nodesの取組み「Browse-n-Borrow」(ショッピングセンターにあり最大750タイトルから探して借りられる) などもある⁶。

◆おわりに: 今後に向けて

今回の訪問は図書館の未来を感じる機会になった。シンガポールという都市国家のなせる業かもしれないが、日本でも導入できるものがあると感じた。実際、神奈川大学図書館ではNLBの取組みを参考にスマートフォンで資料貸出ができるアプリを導入したようだ¹⁰。

今回特にアームで本を運ぶロボットには驚いた。発展すれば館内でより協働できるロボットが実現可能かもしれない。近年、対話型AIも進化しており、Google社の「NoteBookLM」などのサービスで適切なソースを読み込めばレファレンスサービスでの対応のようなことも可能になってきている。まだ精度に不安はあるが、こうしたロボットや対話型AIが進化し組み合わせれば、職員が担うレファレンスの一連業務のより多くの部分の自動化も可能かもしれない。人、AIそれぞれが得意なことを見極め、うまく技術を取り入れていくことで、図書館をより良くする可能性は十分あると感じた旅行となった。

【注・参考文献】 (URLの参照日はすべて2025-09-14)

- NLB brings to life Singapore's first Star Wars Pop-Up Library. <https://www.nlb.gov.sg/main/about-us/press-room-and-publications/media-releases/2025/StarWars-Popup>.
- 外務省. シンガポール基礎データ. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>.
- 長田秀一「シンガポール「IT2000」と国立図書館」『カレントアウェアネス』No.215, 1997.07.20. <https://current.ndl.go.jp/ca1136>.
- Writing the NLB Story. <https://biblioasia.nlb.gov.sg/vol-21/issue-2/jul-sep-2025/formation-national-library-board/>.
- National Library Board Annual Report 2023 / 2024. https://www.nlb.gov.sg/main/-/media/NLBMedia/Documents/About-Us/Press-Room/Publication/Annual-Reports/NLB_Annual_Report_2023_2024.pdf.
- Nodes. <https://www.nlb.gov.sg/main/visit-us/public-libraries-singapore/nodes>.
- スポーツ庁. Our Tampines Hub. https://www.mext.go.jp/sports/content/20220812-spt_sposeisy-000024343_13.pdf.
- 「シンガポール国立図書館委員会 (NLB)、資料の貸出手続きもできるモバイルアプリを公開」<https://current.ndl.go.jp/car/27079>.
- 木下雅弘「シンガポール国立図書館によるSNS投稿収集の取組」『カレントアウェアネス-E』No.503, 2025.06.19. <https://current.ndl.go.jp/e2798>.
- 小池孝昌「神奈川大学における貸出スマートフォンアプリの導入について」『カレントアウェアネス-E』No.417, 2021.07.29. <https://current.ndl.go.jp/e2407>.

